

- 問1 弥生時代の国際関係についてまとめた学習表において、1世紀に「奴国の王」が後漢の光武帝から授けられたとされる「金印」が、実際に見つかった場所として正しいものはどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
1. 奈良県の纏向遺跡                      2. 福岡県の志賀島                      3. 佐賀県の吉野ヶ里遺跡                      4. 大阪府の大仙陵古墳
- 問2 弥生時代に稲作が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を外敵からの攻撃から守るために、周囲に深い堀を掘り、木の柵を設置した集落を何と呼びますか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
1. 高床倉庫                      2. 三内丸山遺跡                      3. 環濠集落                      4. 石舞台古墳
- 問3 弥生時代の代表的な遺跡である佐賀県の吉野ヶ里遺跡では、集落の周囲に深い壕（ほり）や木製の柵が巡らされ、高床倉庫や物見櫓などが計画的に配置されています。このような、外敵や野生動物の侵入を防ぐために周囲を囲んだ集落の形態を何と呼びますか。 (2025年 群馬県公立入試 類似)
1. 寝殿造                      2. 門前町                      3. 国府                      4. 環濠集落
- 問4 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。                      2. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。                      3. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。                      4. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。
- 問5 九州北部の福岡県付近で発見された弥生土器に象徴される時代には、大陸から青銅器の技術が伝わりました。この青銅器の一つである「銅鐸」は、日本において主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。 (2016年 長崎県公立入試 類似)
1. 武士が戦場で敵を攻撃するために使用した、実戦用の武器                      2. 大陸との交易において支払いに使われた、和同開珎などの貨幣                      3. 脱穀を行う際に使用する、千歯こきなどの農具                      4. 豊作などを祈るための、祭りの道具
- 問6 弥生時代に大陸から稲作が伝わり、食料を蓄えることが可能になったことで生じた社会の変化について、最も適切な説明を選んでください。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 表面に縄目の文様がある、厚手で黒褐色の土器が全国的に作られるようになった。                      2. 政府から農民へ平等に土地が割り当てられ、収穫した稲を税として納める制度が整った。                      3. ナウマン象などの大型動物を狩猟するために、人々は移動を繰り返しながら生活するようになった。                      4. 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。
- 問7 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏（ぎ）へ使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
1. 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため                      2. 魏と共同で朝鮮半島の高句麗を攻撃し、領土を拡大するための軍事同盟を結ぶため                      3. 魏の強力な軍勢力を日本に直接呼び寄せ、九州地方の反乱勢力を武力で鎮圧するため                      4. 魏の優れた律令制度をそのまま日本に導入し、中央集権国家をいち早く確立するため
- 問8 倭の奴国の王が、中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀（西暦57年）ごろの世界情勢について、ヨーロッパや地中海周辺の動きを説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 愛知県公立入試 類似)
1. ギリシャ人が地中海沿岸の各地にポリス（都市国家）を建設し始めた                      2. アレクサンドロス大王が東方遠征を行い、ヘレニズム文化が広がっていた                      3. 西ローマ帝国が滅亡し、ゲルマン人の大移動が本格化していた                      4. 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた
- 問9 弥生時代、大陸から金属器が伝わったことで人々の生活は大きく変化しましたが、当時の「青銅器」の主な用途と代表的な道具の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 大阪府公立入試 類似)
1. 鋭利な刃物として戦闘に用いられ、剣や矛などの武器の主流となった。                      2. 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。                      3. 頑丈な農具として開墾に用いられ、すきや鍬（くわ）の先などが作られた。                      4. 食料を保存・調理するための容器として用いられ、須恵器などが作られた。
- 問10 1世紀半ばに日本の「奴国」の王が中国へ使者を送り、皇帝から金印を授かったという出来事が記されている、当時の中国の歴史書として正しいものを答えなさい。 (2016年 大阪府公立入試 類似)
1. 日本書紀                      2. 魏志                      3. 史記                      4. 後漢書
- 問11 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 広島県公立入試 類似)
1. 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。                      2. 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。                      3. 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。                      4. 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。
- 問12 弥生時代の大規模な集落に見られる「環濠集落」について、集落の周囲に深い壕や柵を設けた当時の社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 群馬県公立入試 類似)
1. 大規模な洪水や高潮などの自然災害から、住居や高床倉庫が流されるのを防ぐため                      2. 大陸から伝わった最新の建築技術を誇示し、周辺の豪族に対して政治的優位を示すため                      3. 仏教が伝来したことで、寺院を中心とした聖なる空間を俗世間から区別するため                      4. 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため
- 問13 弥生時代に使用された道具とその背景について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
1. 金属器のうち、青銅器は主に木材を加工するための工具として、鉄器は祭祀用の宝物として使い分けられた。                      2. 稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。                      3. 収穫の効率を上げるために、鉄製の鎌を用いて稲の根元から刈り取る方式がこの時代に確立した。                      4. 牛や馬を農作業に利用する牛馬耕が導入されたことで、大規模な水田開発が全国で一斉に進んだ。

## 答え合わせ・解説

|     |                                                             |                                                                                                                                                                                                                         |
|-----|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 2<br>福岡県の志賀島                                             | 1世紀の57年、倭の奴国が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かったことが中国の歴史書『後漢書』東夷伝に記されています。この金印は、江戸時代に現在の福岡市にある志賀島で農作業中に偶然発見されました。印面には「漢委奴国王」と刻まれています。                                                                                              |
| 問2  | 答え 3<br>環濠集落                                                | 弥生時代には、食料の備蓄や土地の所有をめぐる集落間での争いが生じました。そのため、集落の防御機能を高めるために周囲を堀や柵で囲む工夫がなされました。代表的な遺跡として、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が有名です。                                                                                                                    |
| 問3  | 答え 4<br>環濠集落                                                | 弥生時代に稲作が普及すると、土地や水をめぐって集落同士の争いが起こるようになりました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるこの形態は、集落の周りに壕（溝）を掘ることで、敵の侵入を物理的に防ぐ防衛機能を持っています。一方、選択肢にある国府は飛鳥時代以降の地方行政の中心地、寝殿造は平安時代の貴族の住宅様式を指します。                                                             |
| 問4  | 答え 3<br>稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。              | 稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。        |
| 問5  | 答え 4<br>豊作などを祈るための、祭りの道具                                    | 弥生時代に大陸から伝わった青銅器は、銅とスズの合金で作られていました。当初は武器としての形を持っていましたが、日本では次第に大型化・薄型化し、実際に使う武器としてではなく、集落の豊作や繁栄を祈るための祭りや儀式的道具（祭祀具）として発展しました。銅鐸は特に近畿地方を中心に多く発見されています。                                                                     |
| 問6  | 答え 4<br>土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。             | 稲作が普及すると、生産力の向上により食料の蓄え（余剰生産物）ができるようになりました。これにより、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれるとともに、稲作に不可欠な土地や水の利権をめぐる集落（ムラ）同士の争いが発生するようになりました。こうした争いを通じて、次第に多くのムラを統合する小国が形成されていきました。                                                          |
| 問7  | 答え 1<br>魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため           | 卑弥呼が魏に朝貢したのは、当時アジアで強大な勢力を持っていた中国の皇帝から「王」として認められることで、国内の他の勢力に対して自分の正当性を示す目的がありました。金印や銅鏡といった贈り物は、その権威を視覚的に周囲へ誇示するための重要な道具として利用されました。                                                                                      |
| 問8  | 答え 4<br>地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた                        | 日本が後漢と交渉を持っていた紀元1世紀ごろ、ヨーロッパでは地中海全域を支配するローマ帝国が全盛期を迎えていました。この時期は中国の漢王朝とローマ帝国の間で、シルクロードを通じた間接的な交流が行われていた時代でもあります。ギリシャのポリス建設は紀元前8世紀ごろ、アレクサンドロス大王の遠征は紀元前4世紀ごろの出来事です。                                                         |
| 問9  | 答え 2<br>祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。                    | 弥生時代には鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりましたが、それぞれの金属の特性に応じて使い分けがなされました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用品として普及しました。一方、青銅器は美しい光沢を持つことから、神をまつ際の祭具や、村の権威を示すための道具として使われました。                                                                                |
| 問10 | 答え 4<br>後漢書                                                 | 西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から金印を授かった事実は『後漢書』東夷伝に記されています。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」の金印は、この記述を裏付ける重要な史料となりました。3世紀の卑弥呼について記された『魏志』倭人伝とは時代が異なるため、区別が必要です。                                                                        |
| 問11 | 答え 2<br>中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。       | 弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。 |
| 問12 | 答え 4<br>稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため          | 縄文時代にはあまり見られなかった集落同士の争いは、弥生時代に入り稲作による余剰生産物（富）が生まれたことで発生しました。吉野ヶ里遺跡などの調査からは、集落全体を壕や柵で囲むだけでなく、物見櫓を立てて外敵を監視していた様子も判明しており、当時の社会が非常に緊張感のある状態にあったことを示しています。                                                                   |
| 問13 | 答え 2<br>稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。 | 弥生時代には大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりました。鉄器は主に工具や農具などの実用品として、青銅器は銅鐸や銅鏡のように祭祀・儀式用の宝物として用いられました。稲の収穫には主に石包丁が使われ、穂の部分のみを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。牛馬耕が普及するのは平安時代以降のことです。                                                                     |